

ひまわり



医療・介護・福祉・行政の多職種が連携し合い、住民の方が住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けられるよう必要な体制づくりに取り組んでいます。

平成28年度第1回在宅医療推進事業運営委員会(4/27)



平成28年度からさつま町、薩摩川内市からの委託を受け、在宅医療推進地域支援事業を継続する事となりました。第1回事業運営委員会では、新メンバーとして益崎先生、角倉先生、さつま町中村課長に加わって頂き、平成28年度の活動計画について協議しました。

平成28年度第1回在宅医療推進作業部会(5/31)



平成28年度第1回在宅医療推進作業部会では、20名の委員すべての方が参加され、在宅医療連携シートのアンケート調査を初め、薩摩郡医師会独自の課題について協議致しました。



訪問診療に同行させて頂きました(5/18)



わかばクリニック院長堀之内先生の訪問診療に同行させて頂きました。鹿児島大学地域医療実習生としてわかばクリニックで実習中の長尾さんにもお会いできました。久富木にお住いのJ様、神子にお住いのN様に訪問され、移動時間を含めて2時間かかりました。厳しい環境での在宅医療の実際にふれ、どのような感想を持たれたでしょうか？



裏面もお読みください



在宅医療における人材育成(事例検討会)(5/27)



5月27日マモリエ地域交流室に於いて「病院から在宅への退院支援について」事例検討を行いました。緊急入院された患者様の情報収集を行う際、キーパーソン不在、担当ケアマネが感染症等で不在があり、また在宅での課題が解決できないままの入院となり、入院担当者が苦慮された事例でした。難しい事例でしたが、医療機関、在宅での支援担当者双方の実情を知る良い機会になりました。医療機関では、対象の方の課題解決に向けて、地域ケア会議が開催されたとの報告もありました。今回は、川内市医師会在宅医療支援センターの方に見学参加頂きました。参加者は53名でした。



「オレンジカフェ ほうかつ」(5/2)



5月2日の「オレンジカフェ ほうかつ」では、紙芝居ならぬ布芝居が行われました。「紫尾の麓 西郷(せご)どんの話」と「しびの里さつま熊太郎」の2つの昔話をボランティアとして来られた図書館の戸子田さんと横山さんがゆっくりとした口調でお話しされました。広さ約1m×1.5mの布10枚程に描かれた絵は、絵手紙作家小向井一成先生の原画を基に、宮之城中学校美術部の生徒さんが書かれたそうです。とても上手に書かれていました。ほのぼのとした癒しの時間でした。参加者は、協カスタッフを含め20数名でした。



薩摩郡医師会在宅医療相談支援センター



エレベーターで3階へ



左手のドアです。正面は洗濯室です



在宅医療相談支援センター

在宅医療相談支援センターとして**新館3階**に引っ越ししました。皆様のご来訪をお待ちしております。直通電話(53-4711 FAX兼用)が使用できるようになりました。

在宅医療相談支援センタースタッフ

